

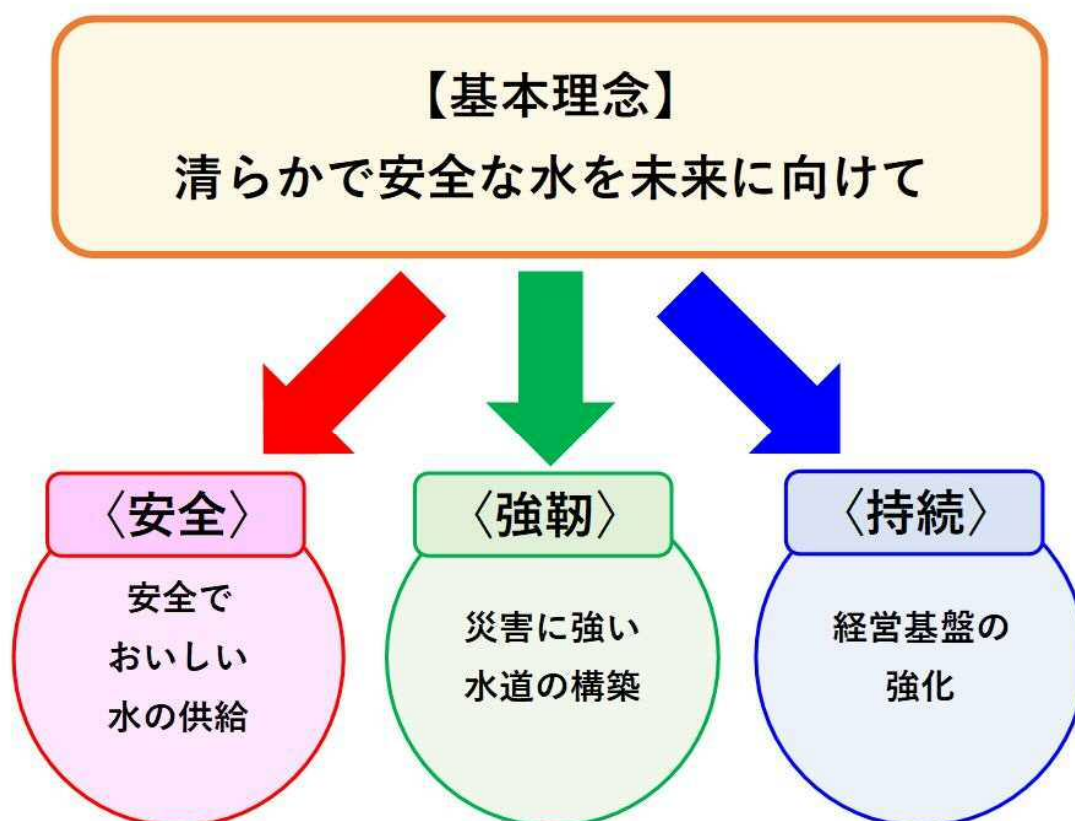
第4章 経営の基本方針の検討

4.1 将来像の検討

本市水道事業の現状と課題を踏まえて、「清らかで安全な水を未来に向けて」を基本理念とし、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点から、50年後、100年後の水道の理想像を検討する。

本市は独自に地下水源をもち、自己保有水源率は100%であるため、安定的に安全安心な水道水を供給することができる。近隣事業体(岐阜市、美濃市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、郡上市、岐南町、笠松町、北方町)のうち、生活用水量 20m³あたりの料金は北方町、岐南町に次いで3番目に低額である。

今後も安定・安全・安心・安価に水道水を供給するためには、財政状況を良好な状態に保つことが必要不可欠であり、収益的収支と資本的収支、負債と資産のバランスを取りながら健全な経営を図る必要がある。



4.2 具体的な目標の検討

経営戦略の将来像を踏まえて、関市水道事業では経営の健全性と、施設、設備の老朽化対策を軸に数値目標を設定し、その達成と継続を目指して経営、運営を行う。数値目標を設定する指標は、経営比較分析表に示されている経営指標の、経常収支比率と有収率とする。

(1) 経常収支比率

経常収支比率は、収益性を見る際の最も代表的な指標であり、収益的支出が収益的収入によつてどの程度賄われているかを示すものである。この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。

平成29年度の簡易水道の統合を機にこの数値が以前より低下したが、令和3年度では類似団体の平均値程度となっている。以上を踏まえ、引き続き、経常収支比率100%以上を計画期間内維持することを目標とする。

$$\text{経常収支比率} = \text{収益的収入(経常収益)} \div \text{収益的支出(経常費用)} \times 100$$

(2) 有収率

施設効率を見る場合、施設の稼働状況がそのまま収益につながっているかは、有収率で確認することが重要である。有収率低下の原因は、漏水、洗管や消防用水等のいくつかの原因が考えられるが、特に漏水については施設効率が高くても収益につながらないこととなるため、有収率の向上は重要な課題である。

有収率の向上を図るためには、早期に老朽管の布設替えを行いながら、漏水件数を減らしていく必要がある。これにより、修繕費や動力費などの給水費用の削減、危険個所の発見、改善が期待される。

関市においてはこの値が類似団体平均値と比較して著しく低いため、関市第5次総合計画で示されている目標値を用いて、令和9年度以降は80.0%を維持することを目標とする。

$$\text{有収率} = \text{有収水量} \div \text{供給水量} \times 100$$